

いきものリレー

最初はだあれ？

学校の関連学習単元

小 5/ 理科 メダカのたんじょう
小 6/ 理科 生物どうしの関わり

プログラム概要

対象 幼 小1 小2 小3 小4 小5 小6 中学 大人
◎ ◎ ○

分野	時期	時間	人数	場所	講師	費用
水	通年	45分 (1時限)	40人 (1クラス)	教室	1人	無料



水

ねらい

- ・生きものつながり（食物連鎖）について考えるきっかけとする。
- ・佐鳴湖や田んぼの水を顕微鏡で観察し、目に見えない生きもの（微生物）の存在を知る。

実施内容

- ・佐鳴湖の豊富な自然環境（動植物）について話を聞き、それらがどのように生活しているかを紹介する。
- ・佐鳴湖の水の観察を通して微生物の存在を知る。
- ・佐鳴湖に生息している動物を「食べる」「食べられる」の関係から説明する。

使用する材料・道具

◇受講者が準備するもの ◆講師が準備するもの

- ◇実体顕微鏡（倍率 100 倍程度）
- ◇シャーレ（グループ数）
- ◇ピーカーなどの容器

- ◆佐鳴湖の水（あらかじめろ過しておく）
- ◆ワークシート

講座活用のワンポイントアドバイス

- ・佐鳴湖周辺の生きものを例に身近な生態系について学びます。
- ・周辺の田んぼの観察を通して同様の内容の講座ができます。

実施機関

浜松市環境政策課（浜松市環境学習指導者）

下記連絡先へ実施日の1ヶ月前までに申し込んでください。浜松市環境学習指導者を講師として派遣します。実施の決定後、事前打合せが必要なため、講座実施の2週間前までに講師へご連絡ください。

問合せ・申込先：浜松市環境政策課 TEL:053-453-6149 FAX:050-3606-4345
E-mail:kankyoku@city.hamamatsu.shizuoka.jp



プログラムの展開例 ※いかり瀬の場合

時間	内容	指導のポイント
導入 20分	<p>○海浜公園の渡船場付近で乗船方法を説明する (船でいかり瀬に移動する)</p> <p>(いかり瀬到着後)</p> <p>○浜名湖とアマモ場について説明する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・浜名湖について説明 (面積、成り立ち、特徴など) ・「アマモ」と「コアマモ」を紹介 ・「海草」と「海藻」の違い ・アマモ場の役割 <p>アマモ場は、水流が穏やかなため、産卵場所や小魚やエビなどのすみか・えさ場となる。</p>	<p>〔浜名湖の概略〕</p> <p>面積：70.4km² 周囲長：128km 水深：平均 4.8m、最大 13.1m(湖心)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に、アマモとコアマモを手にとって説明する。 ・アマモとコアマモの違いには、形状や大きさのほかに、生育場所がある。アマモは海中に生育するのに対し、コアマモは潮汐により海面に出る場所でも生育する。 ・海草とは、進化の過程で一度陸に上がった後、再び海に戻ったもの。種子で繁殖する。 ・有毒の魚等については、可能であれば図鑑等で解説する。
	<p>○観察方法を説明する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観察時間や終了後の集合場所を設定する。 ・行動範囲を指定する(航路帯に入らない)。 ・危険なもの(ガラス、有毒の魚等)には触らない。 ・観察後に採集した生き物を持ち寄り、どんな生き物がいたのか共有する。 	
観察 60分	<p>○アマモ場を観察する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者はフィールド内を自由に移動しながら、生き物を採集、観察する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生き物を採集することができない参加者については支援する。(採集例：網を固定して足で追い込む) <p><安全管理></p> <ul style="list-style-type: none"> ・目の行き届く場所ではあるが、安全管理のため、参加者の動きには常に注意を払う。
	<p>○採集した生き物を共有する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者が採集した生き物を持ち寄り、解説する 	<ul style="list-style-type: none"> ・採集した生き物の解説に終始するのではなく、その生き物にまつわるエピソードや類似種等の解説を交える。
まとめ 20分	<p>○採集した生き物を、観察後アマモ場に放し、海浜公園に戻る</p>	

